

# AOYAMA Courier

138  
No.

2006.7.10

青山クリエ

発行:青山学院女子短期大学 〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-8111  
http://www.luce.aoyama.ac.jp  
AOYAMA GAKUIN WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

クリエは(Courier)はフランス語で「使者」、「定期便」を意味し、英語ではCourierと綴ります。本学の広報誌として、4月、7月、12月、3月の年4回発行されています。青山クリエは本学のホームページ(リンク集)からもご覧いただけます。

**CONTENTS**

**Front-Page Message**  
巻頭言「7月の北スペイン旅行」 淀井彩子 ..... 1

**Courier-Forum**  
クリエフォーラム「充実した学生時代を送ろう」 ..... 2-3

**Courier-Outlook**  
専攻科はいま——専攻科教養専攻 ..... 4  
女性の生き方・働き方を考える「男女平等の先進国ニュージーランド」黒岩裕 ..... 5  
卒業生はいま(吉谷美世子さん)・ギャラリー案内 ..... 6  
クリエシネマ「『ゲド戦記』映画化に 私のしたこと」菅沼真砂子 ほか ..... 7

**Campus News**  
「青山さゆり会奨学金について」加納孝代・春期プレイデー ..... 8  
キリスト教活動のご案内(サマーキャンプ・イン・軽井沢) ほか ..... 9

**Campus Report**  
進路特集(編入学体験記・就職活動体験記ほか) ..... 10-11

**Bulletin Board**  
行事予定・夏期休業中の窓口案内 ほか ..... 12

巻頭言

## 7月の北スペイン旅行 ——先史美術を求めて

芸術学科教授 淀井 彩子

2005年7月、私はパリから列車で北スペインに入りカンタブリア地方に散在する洞窟遺跡を訪ねる旅をした。後期旧石器時代の多くの洞窟遺跡には鹿、馬、ビゾンなどの線刻や色彩による壁画、陰画の手、記号などが残されている。この地域で一番有名な洞窟遺跡はアルタミラで、13才の時に岩波少年文庫の「大昔の狩人の洞穴」を読んで知ったラスコーやアルタミラの洞窟壁画をいつか見に行きたいと考えていた。20代でパリに留学中、スペイン旅行で念願のアルタミラ洞窟に立ち寄り天井の赤いビゾンの群れに感動したことを思い出す。その後、現在まで画家の視点で興味を持ち続けている。

今回は、1999年に北スペインの洞窟遺跡を巡った時、タクシーで入り口まで登ったのに2日間の休みにかかり入ることのできなかったエル・カステイリョとラス・モネダスの洞窟から見はじめた。この洞窟には「陰画の手」といわれる旧石器時代の人間の手の形が壁のあちこちに数多く残されていて忘れがたい。次に訪れたラス・コバラナスで前回同様2日間の休みにかかり3日目に見学することができた。町から離れた白い石灰岩の大きな岩山の一つに洞窟があり私は早めに上の入り口まで登った。30年程前にも彫刻家の夫と幼い娘とこの場所に来たことがある。その時は自動車でフランスのドルドーニュ地方に集中する洞窟遺跡を廻ってから北スペインのこの洞窟にやって来た。2005年7月のこの日、私は再び同じ山に登り洞窟の前に立っていた。頭上から垂れ下がる無花果の枝や目の前に大きく聳える白いピラミッドのような山々、大空を流れる雲などを眺め、夏の暑さと明るさと静けさのなかで、先史時代の人間もこの空間を歩き廻り洞窟に入りしていたと想像すると、時間を超えて現在と結びあう人間の存在と行動を感じる。ガイドと他の見学者も到着したので洞窟の鉄の扉が開かれ内部に入った。暗闇を進んでいくと壁に赤い色で描いた雌ジカの姿が何匹もいる場所があった。ここの全ての動物の絵は一人の人間が指先に赤い絵の具をつけて壁に押し当て、赤い点をつなぐように動物の形を描きあげたという。



この旅で初めて存在を知った3カ所の洞窟も訪れることができた。洞窟はどこも町から離れた山地にあり一番近い町から

バスやタクシー、徒歩で訪ねたが、特にクエバ・ド・シューフンの見学は興味深く思い出す。当日の朝、スペイン人の若者たちとガイドの案内で林を抜け湖の岸から手漕ぎボートで洞窟のある場所に向



チリダ作「風の櫛」の前にて

かった。岩山の中腹にある洞窟の内部は人工的な照明や歩道もなく手を加えない状態で保存されていた。原初の洞窟の状態が想像できる。天井と床の間が狭く這うように通り抜ける場所もあった。ガイドの懐中電灯に照らされた足元は小動物の骨やかけらが石灰岩と混ざり平らになり、水がたまっていたりする。最奥部の暗闇をガイドが照らすと黒々と水面を見せる小湖があり、天井から滴り落ちる水の音だけが暗い洞窟内に響きわたっていた。壁の上方には赤い線で描かれた小さな動物の姿が幾つかあり、反対側の壁の楕円形に凹んだ面に赤い人型を見たように思った。周囲にも赤い色斑があり、そこが特別な場であると直感した。この小さな洞窟で私はガイドのスペイン語の説明を遠く聞きながら、自分だけの不思議な時間にひたっていた。18000年前ともいわれるこの洞窟遺跡でヒトは何をしていたのか。生命の再生を願う儀式が劇場のような洞窟空間で行われたのか。この洞窟内に残された絵は赤色だけで塗られていた。多くの洞窟遺跡で壁画に使用されたのは黒、赤、黄色で黒は酸化マンガ、赤は酸化鉄、黄色は黄色粘土の自然素材から色彩を得て動物の姿や記号、形態を描き残している。外部で採取し加工した材料を持ち洞窟の暗闇に入り込み、わずかの明りのもとで岩壁に何かを描き出す時の決意、期待、動機を想像する。機が熟し人間として世界を象形化する。手を使い木炭や素朴な筆で描こうとする行為だけが現代に生きる私と結び合うことかもしれない。その一点だけでも芸術の発生を思考する動機になる。私はその魅力にひかれ何度も洞窟遺跡をつつみこむ土地空間に呼び寄せられる。画家の視点で捉えた要素が「土地の名・土地の色・土地の時間」というテーマの私の絵画の中に生き続ける。

旅の最終日、サン・セバスチアンの海岸の先端に設置されたこの町出身の彫刻家チリダの作品「風の櫛」を見に行った。海、波、空、光、風をとりこんだ現代の野外彫刻だった。



## 充実した学生時代を送ろう

学生時代を充実させる——本学にはそのための仕掛けが随処にあります。

「学生時代を充実させたい」と思う学生と「充実してほしい」と願うスタッフに熱く語ってもらいました。

——充実した学生生活を送るということで、今やっていること、あるいは自分にとってこれがよかったと思えるようなことを自由にお話ししていただけたらと思います。

有村 私は英文学科2年で、青山祭実行委員会のトークショーという部署のチーフをやっています。昨年は1年生だったので2年生から指示されたことをやっていました。トークショーは思いのほか大盛況で、アンケート結果も楽しかったという声が多く、うれしかったし、やりがいもありました。

宮崎 私は専攻科家政専攻で学んでいます。本科の時には被服でゆかたなども制作しましたが、今年は生命倫理のゼミを取っています。実習的なことも経験するし、学問的研究もする、ということで、ある意味で理想的な家政学科のカリキュラムをこなしているかもしれません。

河見 本学の場合、学科によって学生の雰囲気も学ぶこともだいぶ違いますね。子ども・児童教育学科の場合、充実した学生生活の具体的な姿は英文・家政学科の場合とは、また随分違うように思いますが。

杉浦 学生生活の中で、子どもとの出会い（実習）は、大きな節目になっています。例えば、ある学生は、子どもとかけっこをして、思わず自分は力を緩めた…すると、あとから「センセイ！ホンキダシテナイデショ」と言われて。子どもが何を求めているか、人と人として向き合うことを考え始める瞬間だったと思います。また、専攻科生は共働学舎（長野県）などの施設実習も体験しますので、学生生活後半の就職活動も含めて、涙あり喜びありの濃密な時が、毎日の授業と重なってゆくと感じます。

最近では、入学時に既に幼稚園の先生、保育士を目指して一直線の傾向を感じますが…。

河見 宮崎さんの場合、学生生活3年目になりますけれど、特に心に残った経験はありますか。

宮崎 2年生の夏休みに、2泊3日の学生部主催の清里牛飼体験ワークキャンプに参加したことです。あれは、本当に行ってよかったです。

河見 何がおもしろかったですか。

宮崎 朝の5時から牛を野原に連れていく作業、牛の糞の掃除などをしたことです。牛の世話だけじゃなくて、午後には自然体験プログラムというのもありました。皆で一緒に森に出かけて、例えば、鏡を自分のここ（胸）にあてるのです。すると、空が映るじゃないですか。それが天然記念動物ヤマネの視線なのだそうです。ヤマネになったつもりで、鏡を見ながら歩いてと言われて、何か違った感覚で森を歩けた。そういうことも、とてもおもしろかったです。

杉浦 児童教育専攻科生も一緒に行っていると思います。その体験をもとにした、詩を感じるような感動のこもった感想を読ませていただきました。



宮崎 あや

宮崎 確かに違う学科の人とも友達になれました。それも大きな魅力です。

梅垣 課外活動プログラムのよさですね。

宮崎 今年も参加してみようかなと思って、さっきパンプレットをもらってきました。

——でも、今は専攻科だから就職活動をしていっしょやるわけですね。2年生の今頃は、やはりもう少し勉強しようと思って専攻科に進まれたのですか。

宮崎 はい、そうです。高校の時は詰め込み、暗記型という感じがして、全然勉強は楽しいと思わなかったのです。私は、教職課程を履修したのですが、そこでの授業をはじめとして、大学では、自分の意見を述べたり、感想を書く機会が多く、そのうえで自分の考えをまとめる、という勉強をしてきたように思います。大学は、先生が言ったことを暗記するのではなくて、自分で考えることが中心になる。それがすごく楽しいなと初めて気づいて、専攻科でもうちょっと勉強をやりたいなと思ったのです。

河見 そうですね。宮崎さんは、いろいろな授業を積極的に取り、教職課程にも取り組んで、いわばフルコース、多分相当多くの単位数になったと思います。

梅垣 有村さん、英文学科の場合はいかがですか。

有村 英文学科の授業はやはり英語関係に偏ってしまいますね。シラバスを見ていて、この授業はおもしろそうだなと思っても、やはりその学科の学生しか取れなかったりしますから。

梅垣 英文学科1年生は必修科目も多いので、確かに制約もありますよね。選択科目があっても必修と同じ時間だと、取れないといった問題もあります。でも、例えば外国人の先生の授業はどうですか。いろいろな新しい発見もあるでしょう？

有村 はい、そうですね。英語による英語の授業が今までなかったので、やはり毎回学ぶことが多すぎるくらいありますね。日本人の考え方と他の国の考え方は違うところがあるので、その違いを知るのとはすごくおもしろいです。

河見 カリキュラム上解決しなければならない問題は幾つかありそうですね。いずれにせよ、

「充実した学生生活」の中心にあるのは、やはり授業だと思います。自分を再発見したり、ものの見方が大きく変えられるような授業との出会い、授業の中での出会いがあることが、大学の存在意義ではないでしょうか。



梅垣 千尋

杉浦 今日、20年前の卒業生が研究室にみえて、「学生時代に学んだことが、今、40歳になって花開いた」と熱く語って帰りました。感性がみずみずしい時に、先生の専門の世界や、先生が歩いていっしょだった人生に触れてたくさん吸収したらすばらしいと思いますが…

梅垣 私は教員としてはまだ経験が浅いのですが、学生と接していると、本当に隠しだてができないという感じがします。自

参加者 有村 梨奈 (英文学科2年)  
 宮崎 あや (専攻科家政専攻)  
 梅垣 千尋 (英文学科教員)  
 河見 誠 (家政学科教員)  
 杉浦 梨栄子 (子ども学科副手)  
 司会 寺村 眞佐子 (入試広報事務室職員)

分の今までやってきたことをいつわっていたら、まったく授業になりませんので、何か気づかぬうちにどんどんいろんな殻を破らざるを得ないというか、そういうことは日々感じますね。杉浦 先生との「出会い」の可能性が大きく開かれていることは、やはり本学のよさ、伝統のような気がします。



河見 誠

河見 「出会い」ということ  
 と言えば、宮崎さんは、授業  
 以外で、例えば牛との出会い  
 があったわけですが、それが  
 すごくその後に影響を与えた  
 とか、あるいは、いろんな形  
 で考え方が少し変わったなど  
 ということはありますか。

宮崎 まず、牛乳を飲むのが  
 好きになりました。前は好き  
 ではなかったのですけど。あと、食べ物  
 が食卓に上がる、その  
 背景、裏にはいろんな人の努力があっ  
 て、当たり前に出てくる  
 のではないというすごく大事なことに  
 気づかされました。行ってよか  
 った、と本当に思います。知らない学  
 生が多いので、課外活動を体験した  
 ほうが絶対がいいと思います。

梅垣 やはり「知らなかった世界にとびこんでみる  
 こと」は大切なことですね。自分が意図してどこかへ行  
 けなかったとしても、いろんな発見があつたり、そ  
 こで体験したことが思いがけない方向に自分の考  
 え方を変えたりする、そういうことって人生のなか  
 にはすごく意味のあることだと思います。有村さん  
 は、そういう出会いとか、何か体験する中で自分  
 が変わったと感じたことはありましたか。

有村 やはり青山祭実行委員として活動するなか  
 で責任感が強くなったと思いますね。私の失敗で、  
 青山祭のその部署の先輩とか仲間だけではなくて、  
 結局はお客さんとして来る人にも影響が出てしま  
 うので、仕事は1つひとつすごく気を使いました。



有村 梨奈

梅垣 先輩との出会いというのは、やはり大きい  
 ですか。

有村 いろんな話、就職活動の話もそうです。この  
 授業はこういうことを学べるとか、そういうことも教  
 えてもらいました。青山祭の仕事だけではなくて、  
 ほかの学校生活のこともお話を随分してもらいま  
 した。大学では部活などに入らないと先輩とかか  
 かわる機会がないですから、青山祭実行委員にな  
 って本当によかったなと思います。

梅垣 短大は基本的には2年間なので、1つ上の先  
 輩しかいないというのはちょっと残念なところはあ  
 りますね。でも、その中でも卒業生との関係もあ  
 るのでしょうか。

有村 OGの先輩は、青山祭当日以外はそれほど深  
 いかかわりはなかったです。でも、当日は見に来  
 てくださって昔のことなどいろいろ話をする機  
 会がありました。

河見 もうひとつ、実行委員について伺って  
 おりますが、青山祭にお客さんとして参加する場  
 合と企画者として参加する場合とは、立場が  
 変わるとも思いますが、実際には準備期間もあ  
 りますし、立っているお店にテントを用意して  
 いる人はまた別にいる、といったようなこと  
 が、実行委員会側に立つと見えてきます。ま  
 た、ほかの大学のイベントとか、普通に地域  
 で行われているイベントなどについても、や  
 っぱりイベントの見方が全然違ってきま  
 すね。



河見 例えばごみの処理とか、青山祭は、裏  
 方にならないと見えないことがたくさんあ  
 るのではないかと思います。そういうのを  
 実際に見てみて、大変だったでしょう。

有村 ごみの処理は、すごいで大変でした。昨  
 年はエコ容器を使ったのですが、そのエコ容  
 器と燃えるごみを分別しなければいけな  
 くて、大学の指定された場所に持ってい  
 くんですけど、その場で、それを分別しな  
 ければいけないと聞かされて、担当の人  
 が素手で分別していました。

河見 そういう裏の現場を見られたというこ  
 とは、すごく大きな経験ですよ。

有村 そうですね。本当によかった。ごみの  
 分別準備も、部署ごとに活動しているの  
 で、ほかの部署が何をやっているのか本  
 当はよくわからないですけども、当日、一  
 緒に活動することによって、それを通し  
 て、ほかの部署の大変さも一緒に学べた  
 ので、すごくよかったですね。

梅垣 話を聞けるわけじゃないですけども、先  
 ほどの宮崎さんの話では牛飼いの経験から  
 食べ物が運ばれてくるプロセスがわかっ  
 ってきて、今、有村さんの話では、今度  
 は食べ物のごみその後どうなるかとい  
 うことが見えてきましたね。多分大学  
 の中で、机に向かって勉強しているだけ  
 では見えない世界でしょう。それを  
 お2人もちゃんと見ていらっしやと思  
 いました。すごく良い経験をされていま  
 すよね。

河見 そうですね。やっぱり牛の場合もた  
 だ単なる消費者として牛乳を飲んで  
 いたり、あるいは何となく牧場というイ  
 メージで、この場所できていると傍観  
 しているだけではなくて、実際に生  
 産者じゃないですけども牧場の牛飼  
 いになってみて、だいぶものが見えて  
 くるようになるということはあるでし  
 ょうね。大きな発見でしょうね。

宮崎 本当にいい経験でした。

その後も話はまだまだ続き、2時間に及ぶ「充  
 実」したトークが繰り広げられました。  
 今回フォーラムの参加者は大学での授  
 業以外に学園祭の担当者を1年生から  
 経験したり、課外活動プログラムに参  
 加して積極的に充実した学生生活を送  
 っているように感じました。この記事  
 を読んだ学生の一人ひとりがこのフォー  
 ラムの中に響きあう部分をみだして  
 くださり、本学での時間を有効に過  
 ぎされることを祈ります。

新企画

## 専攻科はいま…

## 第1回 専攻科教養専攻

本学には本科を卒業した学生が学識をより深めるために専攻科が設置されています。専攻科は少人数教育の下、充実した教育を目指しています。専攻科をシリーズでご紹介します。

## ＜教養専攻の紹介＞

教養学科には専攻分野についての学識を深め、その研究能力を培うことを目的に、本科の上に1年間の教養専攻が設置されています。教養専攻の特徴は、大学評価・学位授与機構による認定を受けた認定専攻科であること、教養学科以外の学生も入学できることがあげられます。この結果、専攻科で修得した単位は将来、学士号取得へと結びつけることができ、またこれまで他学科や他大学の卒業生を多く迎え入れてきました。学生数が少ないため、充実した授業を受けることができます。専任教員11名（2006年度の場合）による演習も開かれ、いずれかの演習で修了論文を書くことになっています。この体験は本学における学習成果の最後として、貴重なものとなるでしょう。なお本年度は教養専攻の入学試験は9月16日（土）、願書受付は7月12日（水）・13日（木）と、例年に比べ早まっています。受験希望者は注意してください。

（教養学科主任  
八耳俊文）



2006年度教養専攻 全員写真

## ＜専攻科で学んだ先輩から＞

2006年3月修了 小西 紗恵さん（日本生命保険勤務）

心理学と出会い、その面白さを知ったこと、それがもう一年延長して専攻科に進んだ一番の理由でした。人の心は計り知れないといいますが、人の行動の法則を研究してみると、なるほどと頷かせる事も多く、科学的な見地での人の心を考える面白さが心理学にはありました。修了論文では調査の仕方がわからず、一から教えていただくことになりましたが、専攻科は人数も少なく、私のゼミでは学生が二人だったため、自分のやりたいことをやり遂げられるよう、細部にわたってご指導いただきました。そのため、短い期間ではありましたが、自分の納得のいくものを作り上げることができ、完成した時の喜びは何とも言えないものとなり、印刷された自分の論文を手にした時、胸が高鳴ったのを覚えています。そして専攻科に行った意味がしっかりとした形になったと思えました。たかが一年、されど一年、私にとってはかけがえのない有意義な一年でした。

今、私は心理学と直接関わるような仕事はしていません。けれどもあの時学んだことは、心理学という学問だけではなく、人と常に向き合うことの大切さ、どんな問題に直面しても、自分だけではないという心強さです。そしてそれらは間違いなく私の日々の生活の助けとなり、人との付き合いを豊かにしていくことと思えます。

## ＜専攻科生インタビュー＞

教養専攻の学生に集まってもらい、専攻科の学生生活について自由に語ってもらいました。教養専攻の勉強について

まず「人数が少ない」というのが最大の特徴で、そのため「先生との距離が近く、コミュニケーションがよくとれる」「授業の内容が濃い」「ゼミ形式で面白い」「気が抜けない」「自分の言葉で意見を言う練習ができ、就職活動にも役立った」といった意見が多く聞かれました。また、「本科の時には時間割や必修の関係でとれなかった授業が取れる」「本科で習ったことが基礎となって、今とても役に立っている」「本科の時より主体的に勉強している」と、本科の時以上に授業に積極的にかかわっている様子が伝わってきました。

## 教養専攻について

「いろいろな学問があって、それらを広く浅く学べるし、やりたいことを見つけたらそれを深くも学べる所」「振り返ってみて知識の幅が広がりいろいろなことを学ぶことができた」「いろいろな考え方の人がいて面白かった」など、様々な意見が出ました。本学のこと

「青短のことをどう思う？」という質問をしたところ、みんな口々に「すっごい好き！」との返事。やはり「楽しかった」という意見が多く、「4年生大学に通っている友人たちは学校の話ではなくバイトの話をよくするが、自分たちはやはり大学での授業や先生とのつながりや友人関係が一番の思い出」との声に、みんな納得していました。

## インタビューを終えて

短大生活のまとめとして、専攻科で充実した時間を送っている学生たちはとても生き生きしていました。社会に出てしまうと、もっと学びたくても学べないという状況になり、学生時代にもっと勉強しておけばよかった、と後悔する場合があります。その前に知的好奇心をいっぱい開花させ、様々なことを吸収し、自分のものにしていく様子がとても印象的でした。

（教養学科専任講師 小林知博）

2004年3月修了 西村 絵海子さん（三菱東京UFJ銀行勤務）

専攻科での生活は、本科で過ごした2年間に匹敵するくらい凝縮され、充実した日々でした。専攻科は、本科で違うクラスだった人、外部から来た人、意外にもたくさんのお会いがあります。修了後2年を経てもなお、同窓会が頻繁に開かれ、思い出話や近況報告に花を咲かせています。生活のメインとなった論文は、現代女性と、神話の女性像について、満足のいくまで自由に書かせて頂きました。女性の歩んできた歴史が、いかに現代の女性に影響を与えているのか、自分なりの答えを見つけ、言葉にするのは苦労でしたが、完成した時は、それまでにない充実感がありました。専攻科に進む方以外にも共通して言えることですが、何事にも追求する気持ちを忘れないでください。そうすれば毎日の生活は、今より何倍も実りあるものとなるはずです。



教養専攻の授業風景



## 女性の生き方・働き方を考える — 第3回 —

現職の首相を女性が務め女性が閣僚の過半数を占める国、ニュージーランド。世界で最初に婦人参政権（1893年）を獲得した国としても知られます。昨年、同国に暮らした黒岩裕先生に、ニュージーランドの女性の生き方についてレポートしていただきました。

### 男女平等の先進国ニュージーランド

一般教育科目助教授 黒岩 裕

昨年度、在外研究で1年間ニュージーランドに滞在する機会を与えられました。ニュージーランドは日本の4分の3の国土に人口414万人、羊が約4400万頭という国です。そんなこともあってか、国民性はいたってのんびりしています。少しでも上に、少しでも多く、といった上昇志向にはあまり関心がないようです。同時に平等意識も強く、男女平等の点でも進んでいます。1893年に世界で初めて女性が投票権を得た国として知られていますし、現在も政治の要職の多くを女性が占めています。一例を挙げると、首相はHelen Clark、下院議長はMargaret Wilsonが担っています。国会議員も121名中39名が女性です（日本の女性議員の割合は約10%）。



首都ウェリントンの国会議事堂と執務棟

家庭にも男女平等意識が浸透しているようです。2001年3月の国勢調査によると、調査前の4週間の間に家事をした人の割合は、女性が89%、男性が82%となっています。同時期に育児をした人の割合は、女性が35%、男性が27%となっています（35-39歳の年齢層では、女性71%、男性55%）。完全な男女平等ではありませんが、男女間の格差はかなり小さいものといえそうです。ニュージーランドに滞在している間、平日の昼間に乳母車を押す20代、30代の男性の姿をよく見かけました。（勿論この年齢層の男性失業者が多いというわけではありません。念のため。）職場への女性参加も進んでいます。2001年の労働力人口の割合は、女性の場合が60%、男性の場合が74%で、国全体の労働力人口の半分近くを女性が担っています。高等教育機関における女性の割合も2001年には53%で、男性を上回っています。勿論良い数字ばかりではありません。収入の中央値は女性が\$14,500、男性が\$24,900で大きな開きがあります。



ニュージーランドの最高峰Mt.Cook

パートタイム労働者の割合も、男性が12%であるのに対して、女性は36%に上ります。

男女間の格差を示す統計もありますが、全体的に判断するとニュージーランドは男女平等の先進国と言えます。しかしながら、ニュージーランドの女性は、一昔前のアメリカ女性のよ

うに、肩肘張って頑張って、男女平等を勝ち取ったという感じはありません。社会科学的な調査やデータに基づくものでなく、直感的な印象ですが、人間はのんびりと生活していると自然と男女平等の状態に近づいてゆくのかかもしれません。少しでも上に、少しでも多く、少しでも能率良く、といったことを目指す競争社会では当然個人間の格差が生まれます。そのプロセスの中で同時に男女間の格差や不平等も生まれるのではないのでしょうか。母性を、優劣、強弱、勝ち負けに関わらず我が子やある人を慈しみ愛する心と定義するならば（一面的な定義である、男性にもその様な心情はある、などの批判も可能かもしれませんが）、母性はまさに競争社会とは相反する概念、競争社会に対するアンチテーゼとなります。そのような母性の心をもつ女性が競争社会で遅れをとることはある意味当然のことなのかもしれません。逆に、人々がのんびりと生きている社会では、自然と男女間の格差が小さくなってゆくのではないのでしょうか。勿論、政府や組織、個々人の意識的な努力も必要でしょう。ニュージーランドには女性の問題を扱うMinistry of Women's Affairsというユニークな省もあります。

ニュージーランドの女性という白人女性を思い浮かべるかもしれませんが、白人以外の女性が数多くいることも付け加えておきたいと思います。太平洋の島々を経由して約1000年前にニュージーランドにやって来たといわれる先住民のマオリ(Maori)の人口はニュージーランド全体の約15%に上ります。アジア系移民の増加も顕著で、1991年から2001年の間にその数は2倍以上に増えています。特に経済の中心地オークランドでは、目抜き通りですれ違う人々の半分近くがアジア系です。現在のところ、マオリの女性はヨーロッパ系やアジア系の女性と比べて経済的な面で遅れをとっていますが、その一方で、高等教育機関への進学率は急速に上昇しています。ニュージーランドの公用語は英語とマオリ語ですが（国歌も半分はマオリ語で歌われます）、マオリ語の維持・発展にも大きく貢献しています。マオリの女性は若年層の割合が高く、彼女たちの社会的な役割は今後ますます重要になってゆくものと予想されます。



マオリの男女

世界の中心でアメリカと叫ぶどこかの大国と違い、世界の端々の小さな国ですが、女性や先住民に対する配慮には見習うべきものがあります。自然が美しく、世界でもっとも安全な国のひとつでもあります。機会がありましたら是非一度訪ねてみてください。



南島のフェリー発着地ピクトンの港

## シリーズ 卒業生はいま... 第10回

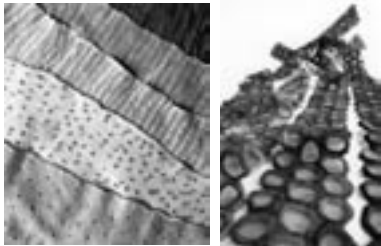
### テキスタイル・デザイナー

吉谷 美世子さん(1987年 専攻科児童教育専攻修了)

#### 融合の先に……

うすい石鹸水をかけ、あとは手で擦ったり転がしたりするのみ。絹や毛等の異素材同士がゆっくりとひとつになっていく。一テキスタイルの学校を卒業してはや10年。現在私は、この「フェルト」という自然と人間が無理なく力を出し合える原始的な方法でオリジナルの布創りを行っている。短大入学以前よりも創りには興味があったが、何をするか決めかねているうちに子供と関わる面白さに目覚め、専攻科修了後すぐに幼稚園に就職した。短大時代の恩師・友人の存在や大好きな絵本・わらべうたからの語りかけに救われながら、子どもたちと充実した日々を過ごしていたが、テキスタイルへの興味(在学中に選択授業で「染色」をとったことがきっかけ)を抑えきれず、ある日意を決してその道に進むことにした。これは子どもたちとの約10年間で積み上げた経験が、引き止めるのではなく後押ししてくれたからこそ出来た決断であり、本当の意味での人生のスタートだった。

幼稚園という集団の場では、社会の一員として自分を活かせる機会が多く安心していられたが、布創りはひとりの時間をつくることから始まる。準備をおえて作業台に向かうと「苦しんでいる人たちのもとへ行ってボランティアをした方がよっぽど役に立つのでは?」「我が子を放って自分のやりたいことをするなんて!」等と自分の内外から声



吉谷さんの作品から

が聴こえてくる。それらがやがて「今私はここにいるのか?なぜテキスタイルなの?」と大きな問いとなって頭の中を駆けめぐる。自分が女・母・社会人・妻等のいろいろな部分に引き裂かれてバラバラになってい

く。でも「目の前のものがどんな風にできあがるのか知りたい!」という何よりも強い探求心が、雑念を払い、散っていた私の部分たちを引き寄せさせてくれ、ひとりの創り手として作業に向き合わせてくれる。

自然の素材たちとそれらに染め付けられた様々な色彩が、私の手を介してまざりあいひとつになっていく。自然の持つ力と創り手が上手く呼応出来た時、とても軽やかで暖かみのある美しい布がうまれる。その瞬間、そこに至るまでのあらゆる感情が大きな喜びとなって私を包み込んでくれる。「あなたはここにいる大丈夫、テキスタイルやってよかったね。」と励ましてくれる。新たな勇気を得た私は、できあがった布の魅力周囲に発信して、また次への一步を踏み出していく。

これからも私は、布創りと共に、自分の居場所を問いながら、ばらばらになったりひとりになったりを繰り返して生きてゆく。上手くいく時ばかりではない、失敗も多い。が、知りたいという探求心ともの創りのできる生活の場がある限り、どんなに遅くても回り道でも止まらずに動いていけると思う。そしてこの布創りを通じて、もっともっと自然や社会と関わっていきたくと切に願う。



吉谷 美世子(よしや みよこ)さん

1986年 児童教育学科卒業

1987年 専攻科児童教育専攻修了後、幼稚園勤務

1997年 大塚テキスタイルデザイン専門学校卒業

「融合」をテーマにした布創りで、個展やグループ展を行う。

2006年現在、専門学校の講師をして学生さんたちとテキスタイルの魅力を探ったり、6才の息子の母親をしながら、11月の個展「窓」(ワコール銀座アートスペースにて)の準備を進めている。

#### ギャラリー・展覧会より



「一般教育展」4月17日～28日



同窓会「第23回さつき会展」  
5月8日～20日

「UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)写真展」5月23日～6月2日



竹と木でできた質素な教室で、歌の授業を受けるエチオピアのスーダン難民の子どもたち

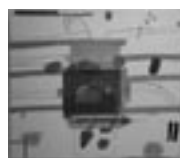


カーブル近くの配線センターで地雷の説明を受けるアフガン帰還民

「第20回女流展 佐野ぬい展」6月5日～23日



もうひとつのシネマ



遠い線の様式I

#### ギャラリー案内

#### Exhibition Guide

■6/27(火)～7/7(金)

[17th AAA おーる あおやま あーと てん '06]

—幼稚園児から大学生までの作品がご覧になれます—

■7/10(月)～7/23(日)[芸術学科 '06展]

—芸術学科の授業で制作した作品が展示されます—

■9/15(金)～9/29(金)[子ども学科2006 図画工作展]

—子ども学科1年生が描く油彩画をご覧下さい—

■10/2(月)～10/13(金)[図書館コレクション展]

—オーク・コレクションPart III “Happy Birthday, Pooh!”—

■10/16(月)～10/26(木)

[14th 芸術学科卒業生によるグループ展]

—芸術学科の卒業生が力作を持ち寄って発表します—

■10/28(土)～10/29(日)[青山祭企画展]

■11/1(水)～11/24(金)

[短大企画 創立記念所蔵作品展]

—青山学院の132回目の誕生日11月16日を記念して、短大所蔵の美術作品を紹介します—

■11/28(火)～12/22(金)

[Art クリスマス AOYAMA in Gallery]

—クリスマスにちなんだ作品を幼稚園から大学まで

一堂に展示します—

# クーリエ シネマ 「ゲド戦記」映画化に 私のしたこと

子ども学科教授 菅沼 真砂子

「『アースシー』の映像化を頼めるとしたら、やはり世界にはハヤオしかないけれど、遅すぎたわね。」2003年8月半ばのある日、オレゴン州ポートランドのレストランで、アーシュラが言いました。

「遅すぎたって、どういうことですか？」私は聞き返しました。

「だって、ハヤオはもう歳でしょう？」

「いいえ、たしか私と同世代。ひとつか二つしか違っていませんよ。」私はびっくりして答えました。

アーシュラが言い出して、私たちは宮崎駿の仕事のことを話していました。いえ、話し手はル・グウィン夫妻で、夫と私は専らの聞き役でした。私たちはふたりとも彼のアニメをほとんど見ていなかったのです。

翌日、ル・グウィン夫妻は今度は自宅での昼食に招いてくれ、その後再び夕方までの数時間を私たちは共に過ごしました。私たちは日々の暮らしのこと、文学のこと、政治のこと、フェミニズムのありようなどを昼食のテーブルで、ドライブの車の中で、あるいはまた、あの滝この滝への小道を歩きながら、ゆっくりと



菅沼先生が翻訳した『ゲド戦記』全6巻  
アーシュラ・K、ル＝グウィン作  
(岩波書店)

語りました。

夕方、いよいよ別れの時が来て、私は確かめなければならないと思いました。前日のアーシュラのハヤオへの賛辞を本人に伝えていかどうかを。

「ええ、そうしてくれたら、うれしいわ」彼女は言いました。

「映画化を頼めるのはハヤオだけ、とおっしゃっていると、ほんとに伝えていいのですね。」私はことの重大さを思って、しつこく念を押しました。

「そうよ。帰ったら、そう伝えて。」アーシュラはもう一度答えました。

これが「ゲド戦記」アニメ化の始まりでした。けれど当の宮崎駿氏は喜びながらも逡巡し、そうこうするうち宮崎吾郎氏が名乗りをあげました。ル・グウィンがそれをどう受けて立ったかはジブリのホームページ (<http://www.ghibli.jp/>) を見ていただくことにして、こうして「ゲド戦記」は宮崎吾郎の第一作として、この7月公開の運びとなりました。訳者のおまえはどう関わったのかと聞かれます。ここに記したことがすべてです。私は若い人たちの新しい仕事への挑戦を邪魔すまいと思いました。誰の顔色もうかがわず、自らを信じ、自らに納得のいく仕事を！今もそれだけを願っています。



撮影：落合 由利子氏

※菅沼先生のお仕事について『青山学報』216号にもインタビュー記事が掲載されています。

## 夏休みに薦める “私の一冊の本”

『松本清張全集』  
全66巻 文藝春秋

子ども学科教授 村知 稔三

まずお断りしたいのは、私にとって「この一冊」はないということです。本学に赴任するまで私は少し回り道をしてきたので、出会った人の数と同じくらい多くの本の影響を受けてきました。そのため書棚から一冊を探すのは難しいので、それ以外の本をここで取り上げることにしました。それにしても全集をあげるのには「禁じ手」かもしれません。



松本清張全集 (本学図書館蔵書)

そのうえ、あまりに有名な著者やその作品について私が新たに論じることはありません。1909年に福岡で生まれ、1992年に亡くなった著者は20世紀を生き、戦後の日本社会の大きな変化を小説として記録した、というのがその仕事の代表的な領域のひとつです。

多くの学生の皆さんは1980年代中ごろに生まれたので、戦後社会の変化を実感しにくいと思います。私の専門でいえば、戦後、とりわけ1960年代の高度経済成長を経て子育てや保育が社会的な問題となってきました。ですから、21世紀初めの子どもを理解するには、その発達や成長を見る顕微鏡とともに、彼らの父母や祖父母が経験した時代をたどる望遠鏡が必要です。そのため、今なお現代風にリメイクされ、放映される著者のドラマを視聴するだけでなく、原作をぜひ読んでいただきたいと思います。

それから、もし北九州市に行かれる機会があれば、小倉城のそばにある松本清張記念館を訪ねてください。著者の東京の住居が移築されていますし、同館でしか上映されない貴重な映像などがあります。九州に20年ほどいた私にとっても誇るべき記念館です。

『ロビンソン・クルーソー』

ダニエル・デフォー著 (海保 真夫訳) 岩波書店

教養学科専任講師 秋富 創

先日田園都市線に乗車していたとき、小学生くらいの少年が熱心に一冊の本を読んでいました。『ロビンソン漂流記』である。もちろんロビンソンと言っても、スピッツの往年のヒット曲でもなければ、デパートの名前でもない。いわゆる『ロビンソン・クルーソー』のことである。この本は、1719年にイギリスの作家ダニエル・デフォーによって書かれた、近代冒険小説の草分け的存在である。親の反対を押し切って航海に繰り出したロビンソンが難破し、南米沖の孤島において



28年間にわたり孤軍奮闘する、という内容であるが、長い夏休み期間中、これから自活して生きていくことの意味をじっくりと噛みしめるためにも一読の価値はあるだろう。経済学を志している人間からするとまた、ロビンソンは実に馴染み深い存在でもある。彼の生活様式は自給自足社会の古典的モデルとされ、物質的に豊かな現代社会との対比に用いられる。さらに彼は、資本主義体制の担い手になった「近代的経済人」の古典的モデルとも見なされる。禁欲・節制・勤勉といったプロテスタンティズムの倫理に裏打ちされた、合理的な資源配分・生産計画・リスク分散といった彼の行動様式が、資本主義体制に適合的な経営者の資質を表しているものとして賞賛されてきたのである。その一方で私たちは、植民地貿易や奴隷貿易が築き上げた莫大な富こそが彼のような人間を生み出す土壌となった、という当時の社会的背景から目をそむけることは出来ない。貴女はロビンソンの物語の中にどのような意味を見いだすであろうか。

Campus News Campus News Campus News Campus News

CAMPUS キャンパスニュース NEWS

Campus News Campus News Campus News Campus News

### 青山さゆり会奨学金について

学生部長 加納孝代

青山学院による給付奨学金（返還義務のないもの）に、昨年度から「青山さゆり会奨学金」が加わりました。「青山さゆり会」とは、明治7年の女子小学校以来、今日の本学に至るまで、数々の変遷と発展を遂げてきた青山学院の女子教育機関の中の、旧制の女学校および女子専門部の卒業生で組織されている同窓会です。その青山さゆり会のご寄付により毎年本学の学生14名に対して、1人あたり20万円の奨学金が贈られることになりました。

最初の年である2005年度には外国から本学への留学生や、本学から在学中に外国に留学ないしボランティア活動滞在した学生たちのほか、各学科から推薦された「学科総代」7名（2つの専攻を持つ英文学科からは2名）が青山さゆり会奨学生に選ばれました。

そのうち学科総代になった方々から本学で学んだものや、卒業後自分はどうに生きたいと考えているかを綴った文章が寄せられました。ここにその一部を紹介します。

女性としての生き方 「青短で学んだ一番大きなことは何か」と尋ねられたら、私は〈女性としての生き方です〉と自信を持って答えることと思います。青短は自分の専攻の範囲内に留まらず、私たち女性が二年間の短大生活を終えて社会に出て行くのに恥ずかしくない教養を身につけさせてくれる場所です。私はゼミでアメリカ女性の心の歴史、及び創立者のドーラ・E・スクーンメーカーの研究をしておりましたが、この校風は創立時にドーラが願った女子教育の大切さが時を越えてもなお青短に受け継がれている証拠なのだと思えます。社会の荒波に臆することなく活躍する女性が一人でも多く青短から誕生することを願うと共に、自身もそのような生き方ができるよう日々努力していきたいという気持ちでいっぱいです。

（英文学科英語学専攻卒業 山本有李子）

新たな世界が見えてくる 私が青短で学んできた知識・技術は、現在の日常、社会生活の中で実際に多く生かされています。例えば、一人暮らしの生活の中で衣食住に関することはもちろんのこと、女性としての生き方を学ぶことができたのは意義深いものであると感じています。後輩のためにこれからも残してほしいことは、アドバイザー制度、ワークキャンプです。私自身がそうであったように、先生や他学科の学生と意見交換することにより、視野が広まり新たな世界が見えてくると思っています。後輩にはぜひ、このような活動に積極的に参加し、また青短の素晴らしい教育を積極的に享受して成長してほしいと思えます。

（家政学科卒業 伊藤裕美）

豊かな感性 〈保育は、子どもに何かをさせるのではなく、子どもと一緒に作りだしていくこと〉であり、〈子どもは豊かな感性を持った人間なのだ〉と理解できたときから、私の子どものイメージは変わり、〈子ども観〉ができていったように思います。子どもと関わる私たち大人はまず、子どもの豊かな心にそえるよう、豊かな感性をもって、常に感性を磨き続けていきたいといった、知識だけではない、子どもと関わる上でもっとも大切な考え方を学ぶことができました。感性を磨くことは子どもと関わるためだけに大切な考え方のように思いましたが、今は社会の中で〈人〉と関わっていく時にも変わらないことなのではないかと考えています。

（児童教育学科卒業 中村麻衣）



バレーボール優勝チーム

### アジア学院・ワークキャンプのお知らせ

今年も9月に「アジア学院」で課外活動を行います。西那須野にあるアジア学院は、アジア・アフリカの農村指導者を育成するためにつくられた学校で、農業や化学肥料に頼らない農業を実践しています。二泊三日のワークキャンプでは、さまざまな国からきた研修生やボランティアとともに農作業にはげみ、自給自足に近い暮らしを体験します。ここでの体験がどれほど多いものなのか、昨年の参加者の声を聞いてみましょう。

（英文学科専任講師 梅垣千尋）



畑で草むしり

#### ワークキャンプに参加して

アジア学院では、いろいろなワークを通じて食について考えました。特に家畜の世話は何体験だったので期待していましたが、臭いだけは大変でした。その他にも畑や田んぼに入っただけの仕事、台所での下ごしらえの手伝いなどがあり、特に2日目は一日中働いてへとへとになりました。でもその後、食堂で1日のワークの成果のような夕ご飯を食べたときは、本当においしく感じることができました。食堂には9人掛の円卓がいくつもあり、アジア、アフリカのさまざまな国から来ていた研修生と、つたない英語ながらも交流することができました。アジア学院の取り組みで印象的だったのは、ごみの処理の仕方をはじめとした循環システムの徹底です。ここでは環境に悪影響を与えることは決してしませんでした。ごみ自体もほとんど出さないし、食べ残しは肥料や家畜の餌にします。私はずっと「環境にいいこと＝めんどろな手間を我慢してやらなくてはいけないこと」と考えていたので、思ったより楽なことに驚きました。私はこの3日間で本当にたくさんのご事を考えさせられました。

（英文学科2年 額額ふみ子）



みんなでワークに出発

### 春期プレイデイ

プレイデイは春・秋に行われる学生と教職員のスポーツ大会です。春のプレイデイは約300名が参加して5/20（土）開催され、入賞者には賞状と短大オリジナルの賞品が授与されました。

秋期プレイデイは11/25（土）開催予定  
あなたも挑戦してみませんか？



# キリスト教活動のご案内

## サマー・キャンプ イン 軽井沢

年間テーマ「ともに生きる」を主題として、講師を招いてお話を聞き、学生一人一人が自分の問題として捉え、学科・学年を超えて語り合います。また、夏の軽井沢をサイクリングなどで楽しむ時間や、一緒にバーベキューをするときもあります。参加するかどうか迷った人が皆、「行って良かった!」というこのキャンプ。今年はおなたも一緒に分かち合いのときを持ちましょう。

期 間 7月25日(火)～27日(木)  
2泊3日  
場 所 短大中軽井沢寮  
テ ー マ 「ともに生きる  
—女性と子どもの権利のために—」  
特別講師 大津恵子氏(女性の家HELP前ディレクター)  
対 象 全学生  
申込締切 7月10日(月)  
参加費用 8,000円  
(宿泊費、食費、往復バス代込み)  
\*申し込み・お問い合わせは、短大宗教活動センター  
(北校舎1階)まで

〈昨年度参加者の感想より〉  
♪「自分が今まであまり関心をもっていなかった話題で、意見がうまく出ず沈黙してしまったり、支離滅裂な話になったりもしましたが、お互いが話し合い意見を聞き合うことによって、視野が広がり、自分にとってとてもプラスになった3日間でした。」



♪「軽井沢は、雑誌に書いてあるとおり、みどりがいっぱいで、空気もきれいでした。毎日のプログラムはおもしろかったです。友達も作る事ができました。機会があったらまた参加したいです。」

### 〈大津恵子先生の略歴〉

この3月まで、日本キリスト教婦人矯風会「女性の家HELP」ディレクターをつとめ、JNATIP(人身売買禁止ネットワーク)の共同代表も兼務してきた。

女性の家HELPは、国籍や在留資格を問わず、緊急避難を必要とする女性の一時的避難場所として1986年に設立され、青山学院女子短大では、その働きを覚えて継続してクリスマス献金をお送りしている。

内閣府の女性に対する暴力に関する専門調査会委員。  
大阪府出身。

主な著書『出版倫理とアジア女性の人権』『女性の家HELP』  
朝日新聞社、朝日社会福祉賞受賞(2002年度)

♪「私は、青山学院女子短期大学に来て初めてキリスト教というものにふれ、友達と一緒にこのキャンプに参加しました。毎日礼拝があって、クリスチャンなので「キリスト教のお話なのだ」と思って構えて聞いていると、なんだか偏見をもって受け取ってしまいがちですが、とってもよいお話だったし、近隣の人々というか、周りの人々というのはとても大切だなあと感じ、とてもためになりました。」



♪「たくさん考える機会をもらいました。しかし、考える段階で終わるのではなく、その次の段階に行動をうつしたいです。」

### 後期キリスト教行事(～11月)

#### オール青山ハンドベルコンサート

日 時 9月23日(土・祝) 13時30分開演  
場 所 青山学院講堂  
演 奏 初等部、高中部、短大、大学の各ハンドベル・クワイア

#### 青山祭開会礼拝

日 時 10月28日(土) 9時30分～10時  
場 所 短大礼拝堂

#### 後期チャペルコンサート(青山祭期間中)

日 時 10月28日(土) 13時～15時(予定)  
場 所 短大礼拝堂  
演 奏 短大聖歌隊、短大ハンドベルクワイア、ゴスペルグループ、  
その他大学団体(予定)

#### 青山学院創立記念礼拝(短大)

日 時 11月15日(水) 12時30分～13時  
場 所 短大礼拝堂  
お 話 深町正信(青山学院院長)

# 進路特集

## 今年度の状況と今後の就職活動について

今年度の就職環境は、景気回復の兆候、団塊世代の退職時期開始といった要因もあり、全国的に企業の採用意欲が強まっているようです。本学への求人件数については、4月末時点で昨年度の約1.3倍程度の件数が来ており、製造業やサービス業の増加傾向が目立ちます。久しく短大生の採用を取りやめていた企業から求人票が届くケースもいくつか見受けられます。

また、一方では採用予定数が若干名の企業もいまだ多く、選考基準の厳しさに変化は無いようです。内定時期や企業の知名度等にこだわらず、また企業から選ばれるだけでなく自分も企業を選ぶのだという気持ちで就職活動に臨んでください。ここで

- ・5年後・10年後の長いスパンで将来を考え、仕事を通して何を  
得たいのか
  - ・「自分のやりたいこと」は今まで視野に入れていた企業・業種・  
職種以外でもできないか
  - ・いままで受けた試験や面接で自分が苦手だった部分はどんな  
ところか、それはなぜか
- といったことについて、改めて考え直してみることも大切です。

7月に入り、就職活動の疲れや、焦りが日に日に色濃くなってきている学生もいると思います。長い社会人生活の第1歩となる大切な時期ですので、周りに流されることなく、自分のペースを保って納得のいく結果を選び取ってください。もし就職活動中困ったことや分からないことがあれば、就職係カウンターまで来てください。  
(学生課就職係)

## 2006年3月卒業生・修了生の進路状況

○進路状況 2006年3月31日現在(名)

進路	学科	本科合計	専攻科合計	総合計
卒業生・修了生数		1088	150	1238
就職希望者数		628	129	757
就職決定者数		614	127	741
決定率		97.8 (%)	98.4 (%)	97.9 (%)
本学専攻科進学		159	0	159
大学・短大進学		109	3	112
留学		0	0	0
専門学校		40	3	43
その他		166	17	183

○大学編入学者数上位10校(名)

青山学院大学	49
中央大学	7
玉川大学	5
日本女子大学	5
法政大学	4
立教大学	4
日本大学	3
フェリス学院大学	3
学習院大学	2
埼玉大学	2

○教育(名)

私立幼稚園	45
公立保育園	2
私立保育園	31
学童保育所	1

○公務(名)

国家公務員	4
地方公務員	3

## 2006年度主要求人企業100社

2006年7月1日現在

### 製造業

- 味の素
- ADEKA★
- アルプス電気★
- オリンパス★
- カゴメ
- 京セラ
- クレハ★
- サンエー・インターナショナル
- 島津製作所★
- ソニー・ミュージックエンタテインメント
- ダイハツ工業★
- タムラ製作所
- テルモ
- 東ソー
- 東レ★
- トヨタ自動車★
- 永谷園
- ニコン
- 日清オイリオ
- 日清食品
- 日清紡績
- 日東富士製粉
- ヒロセ電機
- 富士写真フイルム
- ブリヂストン
- 古河機械金属★

### ポーラ化粧品本舗

- 本田技研工業
- ミズノ
- 三菱重工業★
- 光村教育図書
- 村田製作所
- 理研ビタミン
- リンテック

### 卸・小売業

- 伊勢丹
- エプソン販売
- カナデン
- 京セラミタジャパン★
- 三陽商会
- 第一実業
- 日鉄商事
- 三井物産
- 山善
- ヤマダ電機

### 金融・保険・不動産業

- 青森銀行
- いちよし証券
- 川崎信用金庫★
- クレディセゾン
- 京葉銀行★

### 国民生活金融公庫

- 清水銀行
- 商工組合中央金庫
- 城南信用金庫★
- 常陽銀行
- 住友信託銀行★
- 住友生命保険
- 第四銀行
- 千葉銀行★
- 東京海上日動火災保険
- 東京都民銀行★
- 富山銀行
- 日本生命保険
- 農林中央金庫★
- 東日本銀行★
- 松下総合保険サービス★
- みずほ信託銀行★
- みずほフィナンシャルグループ★
- 三井住友銀行★
- 三菱東京UFJ銀行
- 八千代銀行★
- 山口銀行
- 山梨中央銀行
- 横浜銀行★
- 横浜信用金庫★

### 農林水産・建設・電力・運輸・サービス

- イマジカ
- 京セラコミュニケーションシステム★
- サカタのタネ
- 住友倉庫
- 全日本空輸
- 第一生命情報システム★
- ダイヤモンドリース
- 東海旅客鉄道
- 東急ホーム
- 東京電力
- 日旅サービス★
- ニチロ
- 日新
- 日本通運
- 日本電気通信システム★
- 日本旅行
- 長谷工コーポレーション
- 東日本旅客鉄道
- 日立ソフトウェアエンジニアリング★
- 藤田観光
- ホテルオークラ東京
- ミリアルリゾートホテルズ
- みずほインターナショナルビジネスサービス★
- みずほビジネスサービス★
- 安田倉庫
- ヤマト運輸

業種ごと50音順

★印は学校推薦での募集があった企業

## 編入学体験記

埼玉大学（教養学部）在学

三枝 エリカさん（2005年3月 国文学科卒業）

何かにこだわり続け、諦めずに努力するという機会が、人生において何度あるだろうか。このことは、埼玉大学に編入するまでを振り返るときにいつも考える。

卒論で扱ったテーマをより深く研究したく思い、また、教職につきたいので、編入という道を卒業後の進路に選んだ。埼玉大学教養学部を志望した理由は、より多方面から日本文学を学べるというカリキュラムに魅力を感じたからだ。

11月下旬に入試を受けるまでは、決して平坦な道のりではなかった。夏から本格的に勉強を始めた私には、とにかく時間が足りなかった。国文学科なのに古文もまともに読めず苛立ったりと、いかに勉強離れをしていたかを実感するところからスタートした。就職先が決まった友達や、四大の2年生の友達を羨ましく思い、編入しようとするこすら無謀なことなのではないかと何度も悩んだ。毎日、やらなくてはいけないことに囲まれたまま、気持ちは常に焦っていた。

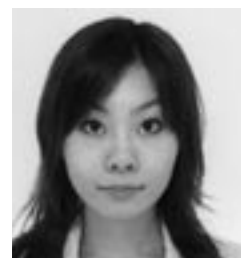
そんな時、編入した先輩の体験談を聞き、自分のペースで一

つ一つこなしていくことに目標を変えていけるようになったのを覚えている。

編入当初は、大学のカラーの違いに戸惑うことも多かった。だが、サークルに入り、他学部にも友人が出来るにつれ、ここでの生活にも馴染んでいけたように思う。

実際に編入して感じてくことは、青短で学んだことに無駄なもの一つも無かったということだ。

2つの学校に通うということは、回り道と思われるかもしれない。だが、私はそうは感じていない。それは、常に不安と焦りを抱えながらも、自分がやりたいことに向かって努力することを決心した上での選択だったからだ。自信を持って、これだけ努力したのだと言えるような経験ができることも、きっと人生においてそう何度もないのだから。



## 就職活動体験記

第一実業（株）勤務

小日向 由紀さん（2006年3月 英文学科英語学専攻卒業）

今、振り返ると就職活動といえば、苦しく不安なことが続くものでした。しかし、思わぬ自分の再発見や色々な体験により内定をいただき就職活動が終了した後、自分が大きく成長したことを実感できました。それでは私の就職活動の体験をお話したいと思います。

私が、就職活動を始めたのは1年生の3月からでした。私は一般職を志望し、なるべく英語を活かせる会社を探しました。業種にはかかわらず、製造、出版、輸出、商社、銀行、IT、自動車販売などさまざまな会社に行きました。そして学校に来ている求人票に記載されている待遇条件（就業時間、社会保険等）を見て会社の説明会への予約をしました。この時、会社の知名度にとらわれない考え方がよかったのかもしれない。そのおかげで学生にはあまり知られていないが、素晴らしい会社に巡り合うことができました。

就職活動中は、訪問各企業までの交通費に掛かる金銭面、慣れないことに加え、試験でのプレッシャーや焦り、精神的不安定など思っていた以上の労力が費やされます。また、就職活動を理由に公欠が使えないので、授業の出席数などを書きとめるスケジュール管理が大変でした。私も何度か授業を欠席しました。多くの友人は就活ノートといわれる専用のノートを作り自己分析・企業研究・面接対応のポイント・スケジュール管理等をまとめていました。私は、手帳と就活ノートを持ち歩きました。手帳には授業出席数、スケジュール。就活ノートには選考が進んでいる面接の内容をポストイットに張ってすぐに見られるようにしていました。

就職活動は、就職先を決めるというだけではなく色々な出会いと発見があります。今まで自分の知らなかった会社と知り合う機会、会社に行くことで得られるそれぞれの会社の雰囲気。

また、会社説明会などで知り合えた他の学校の学生との情報交換等、活動における様々な知識が得られたと思います。活動中良い事も嫌な事もあります。でも、決して途中で投げ出さないうでください。私は活動中に会社への道に迷い説明会に遅れてしまったことがあります。遅刻などは絶対に許されるもの

ではなかったのですが、人事部の担当者の方々と触れ合いこの会社で働きたいと思うようになりました。そして、筆記試験・面接を受験しました。最初は、遅刻してしまったし受験するのを諦めようと思いましたが、面接の練習という風に考えて受験していました。しかし選考が進むにつれて入社したいという気持ちが強くなり、結果、内定を頂きました。自分がエントリーした会社ですから、あきらめずに熱意を伝える努力を続けてみてください。必ず良い結果が得られると思います。

少しだけ私の仕事のお話をしたいと思います。私は、第一実業株式会社で秘書として働いています。この会社に入ってありのままの自分で、又、自分らしく働いていることに驚いています。他の会社だったら今頃どうなっていたのだろうと思うこともあります。ですから皆さんも数年間、はたまた定年まで内定をいただいた会社で働くかもしれません。就職活動は周りに流されるのではなく、自分の心と目で会社を探してください。内定を頂き気づかぬうちに養われていた色々な企業についての知識や経験。これは、実際就職活動を行っていた人にしか生まれてこないものです。自分の明るい将来像を想像して、輝かしい未来を手に入れてください。



行事予定

	日程	行事		日程	行事
7月	3日(月)	前期定期試験時間割発表 *学生情報端末で確認してください。	10月	13日(金)	後期分学費納入期限
	13日(木)・14日(金)	前期教務課提出レポート受付期間		27日(金)	青山祭準備のため授業休講
	14日(金)	前期授業終了		28日(土)	後期(青山祭)チャペルコンサート
	15日(土)	補講日		28日(土)・29日(日)	青山祭
	18日(火)~24日(月)	前期定期試験期間	11月	30日(月)	青山祭後片付けのため授業休講
	18日(火)~25日(火)	前期追試験手続き期間		15日(水)	創立記念礼拝
	25日(火)~ 9月14日(木)	夏期休業		16日(木)	青山学院創立記念日 *授業休講
	25日(火)~27日(木)	サマーキャンプ・イン・軽井沢		18日(土)	推薦入試 *短大構内への立ち入りはできません。
	29日(土)・31日(月)	前期追試験		25日(土)	秋期ブレイダイ
	8月	1日(火)~7日(月)	青山学院一斉休業	12月	1日(金)
9月	15日(金)	後期授業開始	13日(水)		クリスマス礼拝 *3限は休講
	15日(金)・19日(火)	後期開講科目の履修登録日	16日(土)		補講日
	14日(木) (予定)	後期分学費納付書発送	22日(金)		授業終了
	21日(木)・22日(金)	通年科目教務課提出レポート受付期間	25日(月)		冬期休業
				~2007年1月8日(月)	

夏期休業中の窓口案内

◎7月25日(火)~31日(月)、9月13日(水)~ 平常どおり  
 ◎8月1日(火)~7日(月) 青山学院一斉休業のため業務停止  
 ◎8月8日(火)~9月12日(火) 開室は下表のとおり

部署	曜日	時間	備考
庶務課・教務課・学生部	月・水・金	9:00~15:00*	*11:30~12:30は除く
図書館	月・水・金*	9:00~17:00	*開館日程は掲示・図書館ホームページで確認してください。 <a href="http://www.agulin.aoyama.ac.jp">http://www.agulin.aoyama.ac.jp</a>
宗教活動センター	*	9:00~16:00	*7月25日(火)~27日(木)はキャンプのため閉室。 その他の開室日は学生情報端末にてお知らせします。
教室メディア運用室 マルチメディア教室	*	9:00~16:00	*教育メディア運用室前の掲示かホームページで確認してください。 <a href="http://www.luce.aoyama.ac.jp/media-info/">http://www.luce.aoyama.ac.jp/media-info/</a>
保健室	月	9:00~16:00	校医は来校しません。
就職資料室	月~金	9:00~17:00	
学生相談室	水	11:00~16:00	

◎証明書自動発行機稼働は月~金 8:00~17:00、ただし青山学院一斉休業中は発行を停止します。

2006年度後期分学費について

\*後期の学費は下記のとおりです。

	国文・英文・ 家政・教養	児童教育	芸術	子ども
1年	371,000円	—	418,500円	378,500円
2年	387,000円	392,000円	434,500円	—
専攻科	365,000円	370,000円	412,500円	—

納付書発送 9月14日頃の予定 納入期限 10月13日(金)

(注) 外部の短期大学から入学した専攻科生は、上記の他、同窓会費16,000円が必要になります。

本科より専攻科への入学試験情報

2007年度専攻科の入学試験日程は下記のとおりです。

詳細は募集要項で確認してください。

募集要項は本館受付で販売しています。(月~金曜日:9:00~17:00)

	国文・児童教育・教養専攻 (他学科から教養専攻への進学含む)	英文・家政・芸術専攻
願書受付 (郵送のみ)	2006年7月12日(水) ~13日(木)	2007年1月29日(月) ~30日(火)
入学 試験日	2006年9月9日(土)筆記試験 (児童教育専攻のみ) 9月16日(土)面接 (他学科から教養専攻は筆記試験)	2007年3月1日(木)面接

中軽井沢寮開寮のお知らせ

一般開寮期間 7月27日~8月28日(8月9日午後~11日午前休業)  
 宿泊料(1泊2食) 4000円(学生、教職員)4700円(卒業生、学生家族)  
 申込受付期間 6月19日~7月31日、8月9日~25日  
 申込み先・時間 庶務課 月・水・金 13時~16時(夏期休暇中は15時)  
 電話問合せ先 03(3409)7086(庶務課直通番号)

編集後記

仕事柄、各大学の広報誌を目にする。各大学とも編集に力を入れていると思うのだが、その大学らしさが紙面から伝わってくるものは少ない。コンセプトが明確でないために、その大学の良さが伝わっていないのならばとても残念だ。広報誌は何はさておき読者に読まれ親しまれ、学生に有益なものであってほしい。サンプルを尋ねられれば「クーリエです」と胸を張りたいところだが、それは読者が判断することであろう。青山学院のスクール・モットーは「地の塩、世の光」である。読者諸氏の塩味のきいたご意見、ご感想を切に願いたい。(奥井 正司)

編集委員 奥井 正司 奥村 健一 志賀 智江 田口 恵子  
 寺村 真佐子 山井 准子 山田 美穂子

※次回発行は11月下旬の予定です。

★クーリエへの感想やご意見をお寄せください。kouhou@luce.aoyama.ac.jp